

有珠山の火山活動解説資料（平成30年11月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～④、図2）

山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。地震は山頂火口原直下の海面下1km付近で発生しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4～5）

GNSS¹⁾連続観測及び10月に実施した繰り返し観測では、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

今回の火山活動解説資料（平成30年12月分）は平成31年1月11日に発表する予定です。

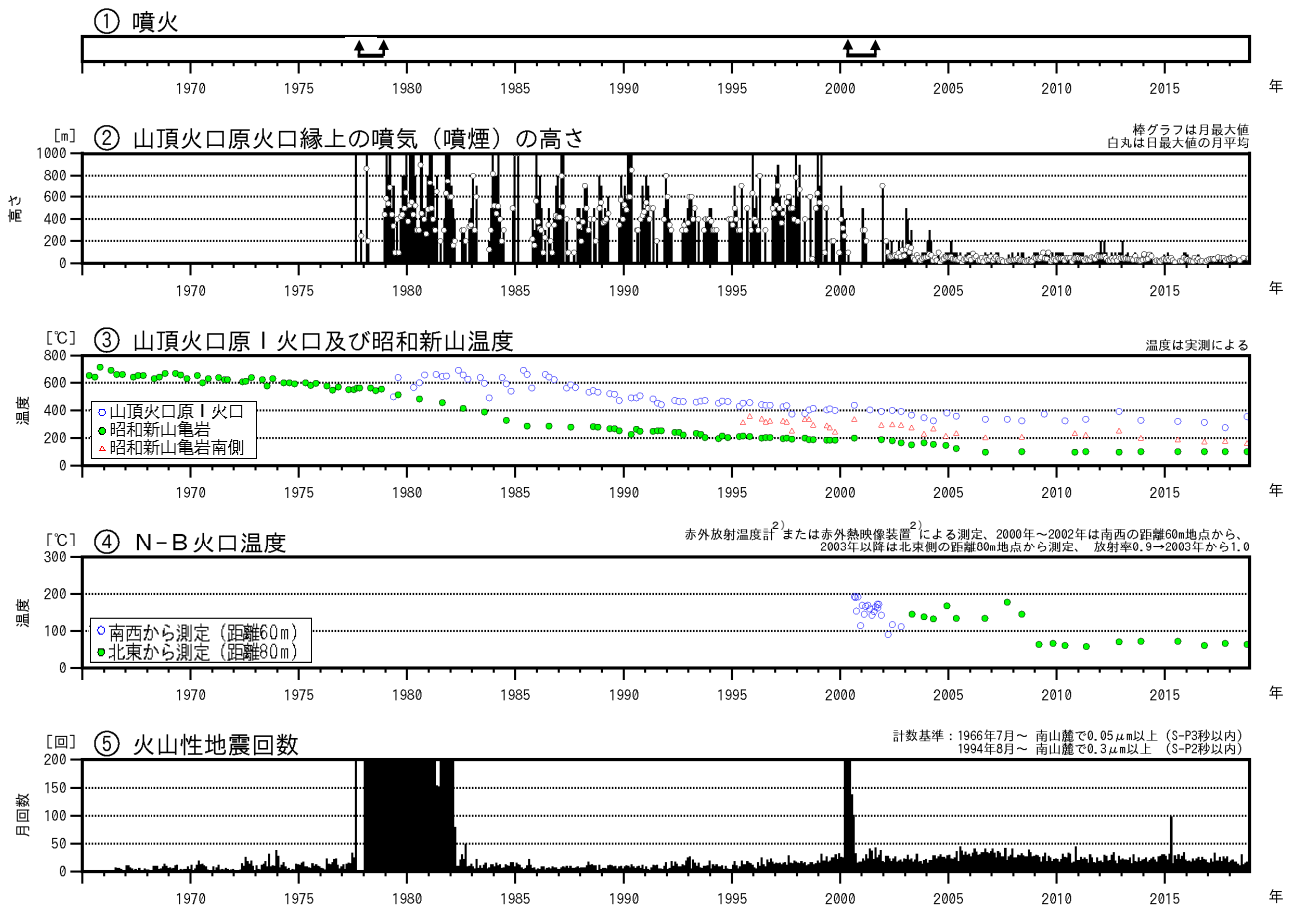


図 1 有珠山 火山活動経過図 (1965年 1 月～2018年11月)

↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

- 2) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

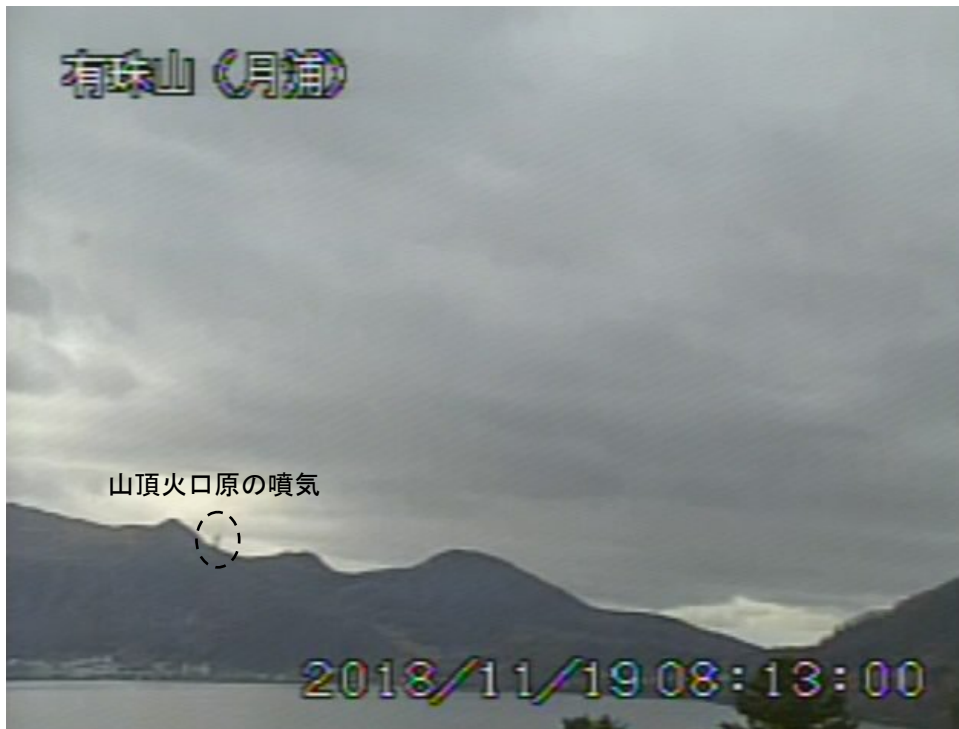


図2 有珠山 北西側から見た山体の状況 (11月19日、月浦監視カメラによる)

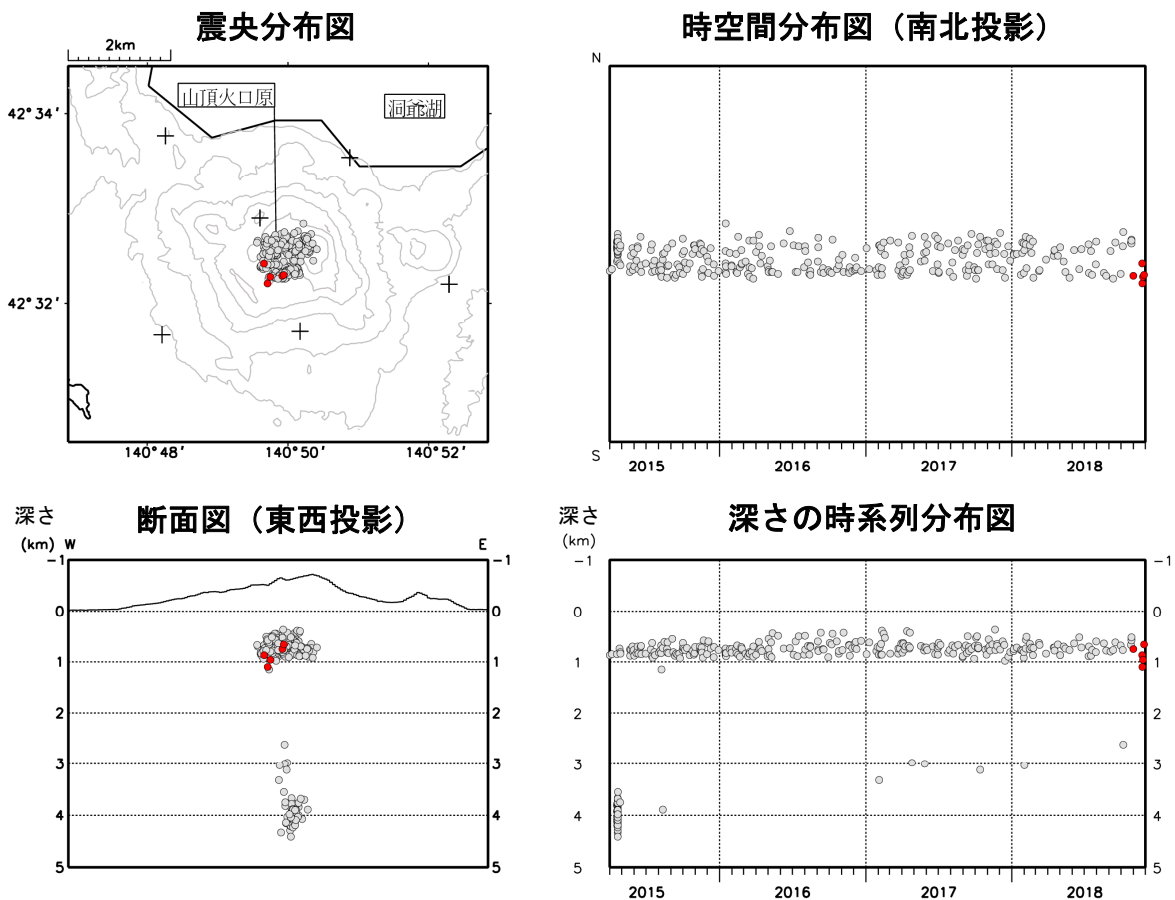


図3 有珠山 火山性地震の震源分布 (2015年4月～2018年11月)

●印：2015年4月～2018年10月の震源 ●印：2018年11月の震源
 +印：地震観測点

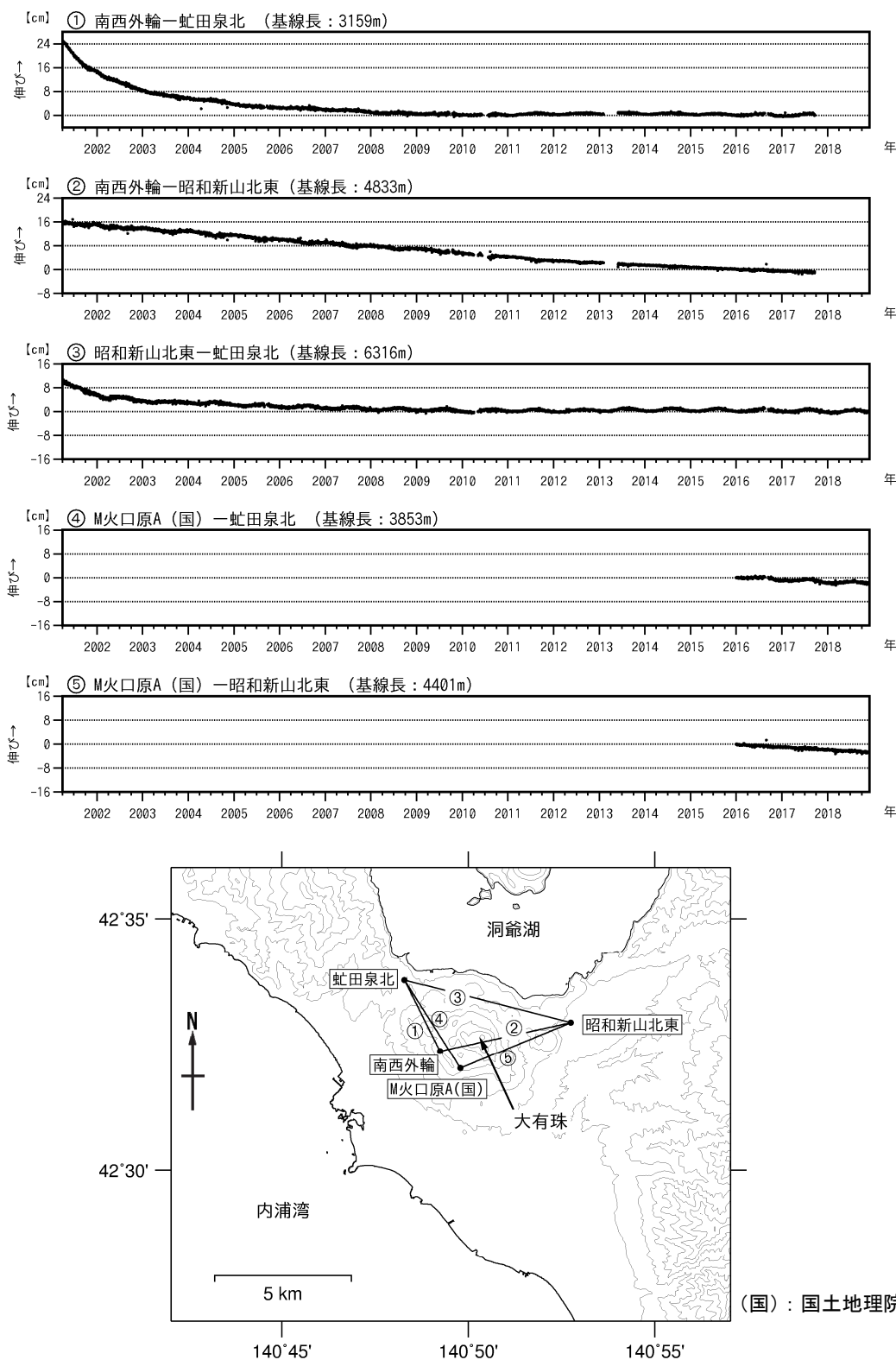


図 4 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化 (2001年4月~2018年11月) 及び観測点配置図
 GNSS基線①~⑤は観測点配置図の①~⑤に対応しています。
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
 南西外輪が2017年9月以降欠測となっているため、参考に基線①、②に近い基線④、⑤を表示しています。
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

- ・1977年から1978年の噴火以降、1982年3月まで続いた山体隆起は沈降に転じ現在も継続しています (②、⑤の基線)。
- ・2000年の噴火後の山体収縮による縮みの変化はみられなくなっています (①、③の基線)。

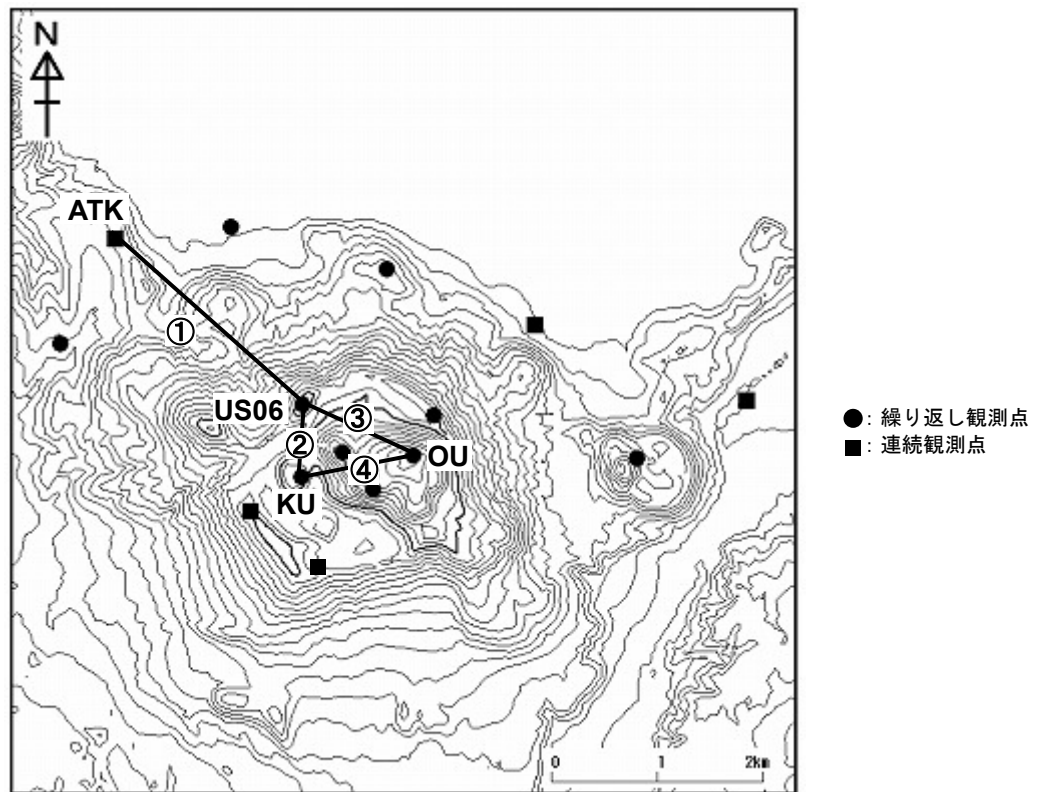
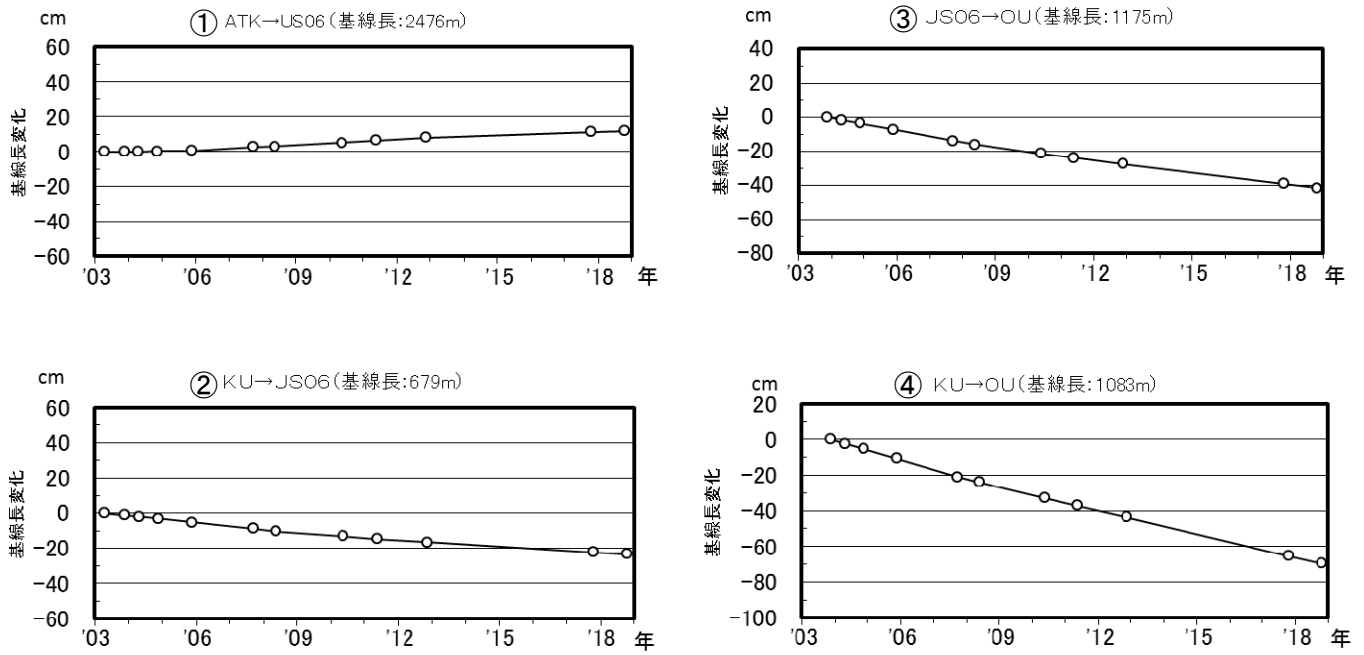


図5 有珠山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化 (2003 年 4 月～2018 年 10 月) 及び観測点配置図
 GNSS 基線①～④は観測点配置図の①～④に対応しています。
 ・GNSS 繰り返し観測では、山体の沈降を示す地殻変動が引き続き認められました。

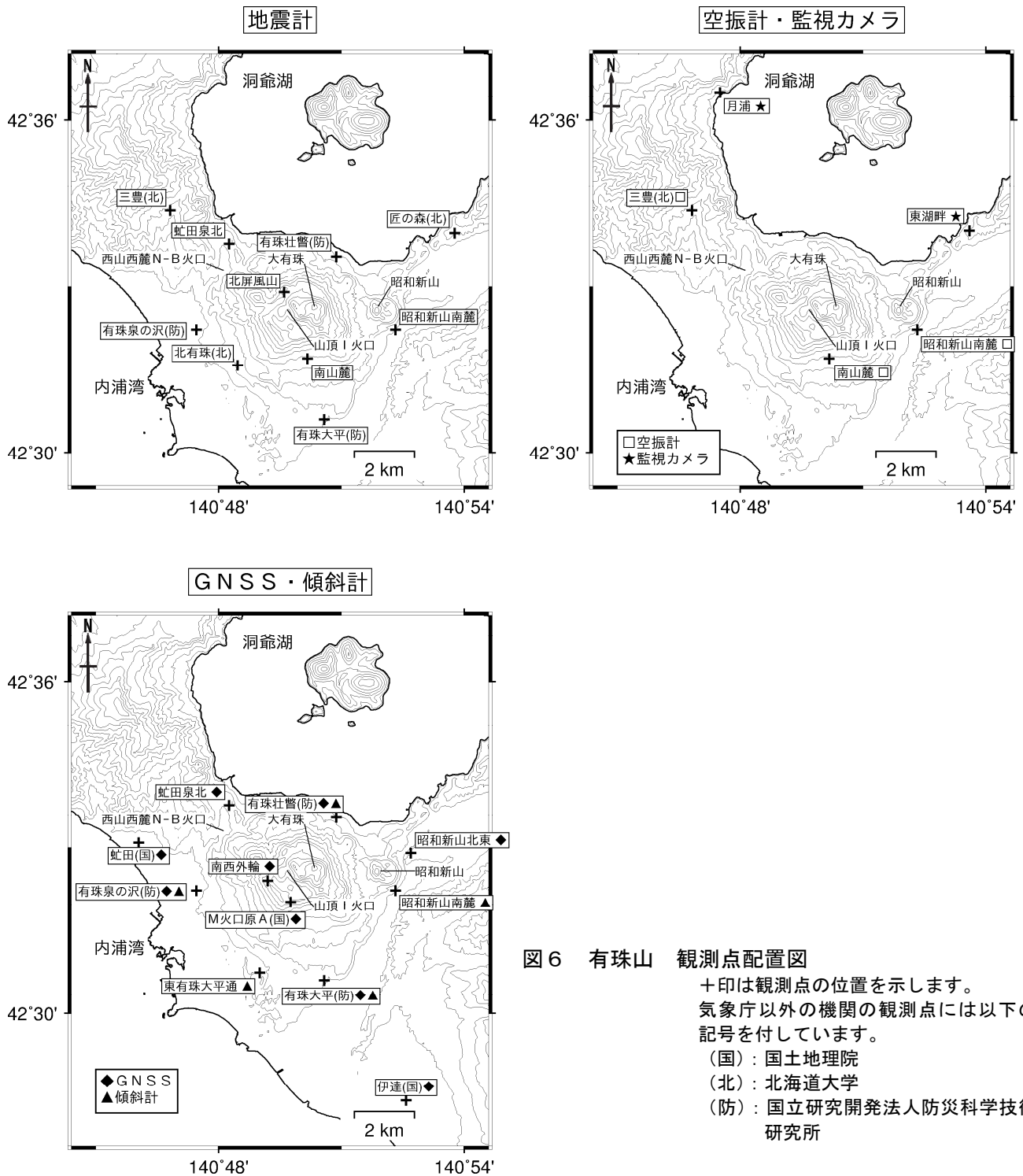


図6 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
 (国)：国土地理院
 (北)：北海道大学
 (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所